

歴史と文化のまち 白市

白市は戦国時代の文亀3（1503）年、平賀家が白山の頂上に城を築いたことを契機に、城下町としてつくられたまち。江戸時代になると人と物が行き交う商人の町として栄えていき、昭和初期頃まで、牛を売り買いする「牛馬市」がたち、まちもにぎわった。

丘陵状のまちに赤瓦が連なる家並みと木々の緑のコントラストが美しい。

現存する一番古い町家が江戸初めの「旧木原家住宅」。明治、大正、昭和と各時代の町家が残っている。



徒歩圏内に文化財が建ち並ぶ白市



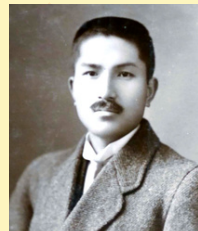
交通案内

- 所在地 広島県東広島市高屋町白市1082
- 最寄り駅 山陽本線白市駅
徒歩25分 タクシー5分
- お車の方 山陽自動車道西条インターチェンジ
河内インターチェンジから車で約20分

文化庁登録物件 伊原正三家

大正期の意匠建築 伊原正三家住宅

伊原正三家住宅は白市の坂を上った町の中心部にある町家。大正4（1915）年、伊原正三氏が23歳の時に建設をはじめ、2年後に完成させた。



趣向を凝らした意匠や伝統的な和風建築に当時の流行を取り入れた大正期ならではの特徴が表れている。巧みな職人技が随所に見て取れ、この時代の地方大工の技術の高さを示している。

2018年に文化庁登録物件に。

利用案内

- 見学について
事前予約制です
- イベントなどの貸し出し
お茶会、演奏会、撮影会、
展示ギャラリーとして活用
- 問い合わせ先
メール
ihara1917@gmail.com



ホームページ

<https://ihara1917.mond.jp/>



登録有形文化財

伊原正三家住宅



〒739-2114

広島県東広島市高屋町白市1082

粋なデザインの宝庫

趣向を凝らした意匠や
巧みな職人技が随所に



放射線状の天井

柱を傘の柄に見立て、一枚の板を少しずつ切り詰め放射線状に



欄間砂壁に切り取られた富士を背景に表裏2枚の板で美保の松原を立体的に表現



組子障子に透かし模様

縁側の障子欄間の裏側には、砂壁でたなびく雲ともみじが表現され、陰影を与えている



火灯窓をデザイン

寺院建築でお馴染みの火灯窓をアシンメトリーにデザイン



床の間の銘木

落とし掛けには枝つきの黒檀、つけ書院には鉄刀木（たがやさん）、床柱には天然しほりの杉丸太を使用



円形的地袋

床脇の地袋は、けやき一枚板に円形に溝をきっためずらしい意匠



主屋

街路に北面して建つ入母屋造り妻入りの二階建てで、随所に趣向を凝らした造作を施す。入母屋の小棟を重ね、繊細な格子が並ぶ表構えが特徴的。建築面積289㎡



主屋から離れにつながる渡り廊下と庭

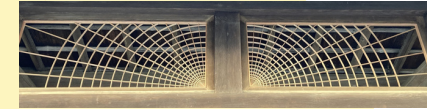


繁格子の窓

一枚石の上に、細部にまで意匠を凝らした格子窓が広がる

門及び塀

主屋の正面西側を区切る門及び塀は、楕円形の窓、くもの巣状の欄間など近代的な和風意匠
門：木造 瓦葺、間口1.6m
塀：木造 瓦葺、総延長13m



くもの巣状の欄間



飾り瓦



御成門



式台玄関

御成門から入ると庭の奥には社寺建築を思わせる式台玄関。奥の座敷へと続く



茶室

敷地最奥に建つ茶室は待合、手水鉢を敷石でつなぎ、野趣に富む数寄屋意匠